

6. 「子ども専用フリーダイヤル キッズライン」

—電話相談活動—

グループ名：児童虐待防止協会 キッズライングループ

代表者：高崎 幸子

1. 活動の目的

- ・ 子どもの気持ちを聴く活動を通して、子どもが自分の大切さや人への信頼の心に気づき勇気をもって自ら行動できる力を回復できるように支援する。
- ・ 虐待の早期発見・援助・予防(虐待の知識、対応、次世代の親としての人権教育)による被害の減少をめざす。

2. 活動概要

① 「子ども専用フリーダイヤル キッズライン」(電話相談活動)

～第1・第3土曜日 14:00 から 19:00 児童虐待防止協会 電話相談室にて実施～

子どもは育つ途中の存在であり養育、教育、愛情、信頼の中での成長環境が必要ですが、大人の事情で子どもの権利が守られない状況も起きています。キッズラインは「安心して話す場」で気持ちを出す大切さを知り人への信頼を取り戻すことができる有効な機会です。子どもを尊重しながら、肯定的に聴くことで子どもは、自分に起きていることをしっかり捉え自分への自信を少しずつ取り戻し気持ちを整理し、自分の力で行動を選択できるようになります。そのお手伝いをしています。

2011.10 から 2012.9 までの相談件数は 24 回の相談日で 166 件でした。

② 高校生との「虐待について考える」交流活動および冊子作り

～公立3高校との交流について～

授業の一環として依頼を受けたら、直接生徒さんと学習します。グループワークにて子どもの語りを大切にする内容を目指しています。数年の実施の中から虐待の知識のみならず、子ども自身の生活、生き方、価値観などについて深めたり、人とのコミュニケーション力や相談することの大切さ、信頼できるおとなの存在などについて気づける内容で実施しています。

また高校生向けの学習冊子を製作中です。虐待の認識を含め一人ひとりの人権意識を高めて虐待の被害者にも加害者にも傍観者にもならない視点をもつことが虐待を減らす社会を構築できるとの考えで授業で使っていただきたく 2012 年度末をめざし毎月ス

スタッフ間で熱い議論を重ねています。

③ 啓発活動

子どもが自分の権利侵害に対して助けを求めることは、勇気のある行動であると気づいてもらえることをめざし、名刺大のカードにキッズラインを案内する電話番号を記し、毎年6月から10月に配布しています。カードを携帯しているだけでも、子どもの力につながると信じています。大阪府内公立小学校5年生と中学1年生の全員および私立と国立小学校と中学校の保健室にあわせてカード180,000枚とポスター1500枚を配布。発送作業もスタッフが時間を出し合って手作業で行いました。

④ 研修

より良い聴き手である為に年間7回の研修実施をしました。
ロールプレイなど外部講師による研修やスタッフ間の交流もふくめて研鑽を積む機会としています。

★ 毎月①から④の事業についての運営会議を持ちました。

3. 決算報告書

収入：大同生命厚生事業団助成金 100,000 円
他団体助成金・児童虐待防止協会オレンジリボン寄付 1,072,000 円

支出：

使途内容	金額
スタッフ交通費（電話相談、ミーティング、作業）	367,000
会場賃借料（7回分）	31,000
通信費（フリーダイヤル料、カード送料）	203,000
諸謝金（研修講師3人分およびスーパーバイザー）	265,000
印刷製本費（カード、ポスター）	300,000
消耗品費（輪ゴム他）	1,000
保険費（9人分）	5,000
合計	1,172,000